NHK 朝ドラ「カーネーション」の町、岸和田　と

四郷は串柿の里 めぐり 顛末記

東 中 香 代

「絶対に行く行くモード」だった 20 日前の早朝、いつものウォーキングコースで不測の大転倒、足首をひどく捻挫…、一瞬でこりゃだめだと観念し向こう一カ月の予定をすべてキャンセルした。が、私が行かないと若田さんも及び腰。様子見舞いに立ち寄ってくれた小林さんをゲットして、いざとなれば両脇を抱えてもらう内心勝手な算段で参加することに。ちょうど 20 日ぶりに、こわごわ靴をはいてバス停へゆるりゆるり。ＴＶの朝ドラ人気番組「カーネーション」は見ていない。だんじりではよく怪我人や死者まで出すと聞いてなんと野蛮な、と思っていた。岸和田城に至っては存在をさえ聞いたこともなかった。

さて 11 月 30 日、小春日よりの清々しい朝、コースは昨年とほぼ同様に大阪湾を時計回りに人工島と橋を代わりばんこ。神戸から１時間も走らないのにNHK朝ドラ「カーネーション」の町、岸和田に到着。だんじり会館の駐車場で降りる時、一瞬バスに残ろうかと躊躇した。果敢に（！）立ち上がったのは、福家会長もまた肉離れした足にテーピングしての参加であるのを聞き及び、えいままよと（！）。

行けなかった方には下手な説明でおわかり頂けるとは思わないが、だんじり会館では、昭和初期を再現した街並み、ズラリと並ぶイナセな纏いの数々、「ほんまもん」のだんじりの大きな台車、そして３Ｄ映像にクラクラしながら勇壮なだんじりまつりを見て、岸和田の人が燃えるのに納得がいった。

因みに、約 300 年の歴史と伝統を誇る**「岸和田だんじり祭」**は、元禄 16 年（1703 年）、時の岸和田藩主岡部長泰（おかべながやす）公が、京都伏見稲荷を城内三の丸に勧請し、米や麦、豆、あわやひえなどの 5 つの穀物がたくさん取れるように（五穀豊穣）祈願し、行った稲荷祭がその始まりと伝えられ、現在の勇壮なだんじり祭として親しまれている。

続いて隣の岸和田城に。お濠の水の色と、幾何学模様の洋風とも見える珍しい枯山水が実に素晴らしかった。工事中の不規則な行程の段差や、お城の見学にはつきものの階段がかなり、相当、「ほんまに」きつかった。

岸和田城は、建武新政期に楠木正成の一族和田高家が築いたといわれている。天正 13（1585）年、羽柴秀吉は紀州根来寺討滅後、伯父小出秀政を城主とし城郭整備され、天守

閣もこの時に築かれる。寛永 17（1640）年、岡部宣勝が入城、明治維新まで岡部氏 13 代が岸和田藩を統治。天守閣は文政 10（1827）年に焼失、現天守閣は昭和 29 年建造された 3 層 3 階の模擬天守。本来は 5 層天守であったことが絵図などで確認されているそうである。

お城を後に平地に出たが、そこからは市内散策マップを甘く読み過ぎたのを思い知らされる。特に南海岸和田駅を越してから、主人公の小篠綾子さんの大姪の経営する割烹料理店「うおり」までが、平均年齢からしてちょっと…遠かった。しかし和風料理の内容は文句なし。姪御さんの朝ドラ「カーネーション」の裏話が面白い。神戸のおじいちゃん宅は、ホンマは羽衣の人でどうやら岸和田弁がうまく話せないので設定が神戸になったらしい。心斎橋にあるデパートの女子店員の制服を作る話は、今はないけど岸和田にあった百貨店の制服であったこと、TV の撮影はおおむね倉敷で撮られていることなどなど。

食後、バスの運転手さんの狭い駐車場をターンする技に大拍手！　一路、コシノギャラリー洋装店跡へ。撮影に使われたミシン、初めて縫った洋服やアッパッパァなどが並んでいる。私はヘアスタイルで 3 姉妹のどれが誰だかわかる図案に魅せられて小さなバッジを記念に購入、210 円也。

昨年度のツアーの道を再度辿って、こはく色の珠のれんに染まるふるさとの原風景が広がっているだろう四郷は串柿の里へ。ウッソ～！と叫びつつヘアピンカーブをどんどん登る。どうして車も道路もない時代にこんなところに人々は住みついたのであろうか。帰宅後地図で調べたら、ありました、ありました、あの立っているのも困難なほどの坂、坂、坂の道端にあったバス停の、その名も「平」。串柿の里は、400 年の昔から歴史と伝統を育んできた四郷(しごう）を中心にしたのどかな山里で、四郷とは、平、東谷、広口、谷の四つの村の総称で、近くには紀ノ川の源流が流れています。

企画してくださった坂本さんが、下見の時とは干し柿の暖簾の色や大きさが違っていたそうだが、水分が抜け、紫外線にさらされて…時がもたらす変化だと身につまされつつ…、甘くておいしい絶品の干し柿を、広げてあるプラスチックのケース単位でいくつも買って、その場で分け合ってお土産に。福崎さんは超特大のゆずを危険をおかしてゲット、拍手！　私は無事に帰宅、歩数計は 9525 歩、ねんざの足に拍手。